

木のお手入れ 林業体験

とき

4月19日(日)

10:00-15:00

ところ

「彩の森」

京都市北区大森西町

お箸にお椀、家具から家まで、私たちの身の回りには、たくさんの木が使われています。こうした木がどこでどのように育っているか、ご存知ですか？

水の豊かな日本の国土の7割は森林。

そこでは多くの木がすくすくと育ち、たくさんの生きものを育てています。

特に建築の材料として植えられている木は、まっすぐで大きな良い材となるように、植林したときから、たくさんの手間をかけて育てられます。

私たちが京都の森に10年前に植えた500本の木たちも、ようやくかわいい小さな幼木に育ってきました。

家を建て、木を消費する私たち工務店が、伐採した跡も再び木を植え、森を循環させていきたい、という思いで植えた木です。

今年も、幼木に大きな節ができないように、枝打ちを行います。

森を流れる気持ちの良い小川のほとりで、ご飯を炊いて、お昼を食べます。アウトドア初心者の方からお子様連れまで、どなたでもご参加いただけます。

運がよければワラビやタラの芽も採れそうです。その場で天ぷらにしましょう。生物のエネルギーが沸き立つ春の森は、踏み入るだけで元気がでます。皆さまぜひお越しください。

主催：彩工房

国産無垢材の家づくり

彩工房は、国産材を使って家を建てています。またその中でも、なるべく地域の森の木を利用しています。なぜなら、地域の森を育てていくことが、よい家づくりを続けていくためには欠かせないことだと考えているからです。

日本の森は、戦後大々的に植林され、4割を人工林が占めています。しかし、高度経済成長期に木造住宅建築の機械化、オートメーション化が進んだ結果、安くて扱いやすい、形や品質の揃った外国産材が好まれるようになってしまいました。

そして、本来住宅建築に使われるはずだった木が、伐採の適期を過ぎても伐られずに放置され、土が痩せて土砂災害の起こりやすい状況を招いてしまっています。

スギやヒノキが育ち、その成長が鈍くなるまでには、約60年かかります。ちょうど木材としても、よい材が採れる時期です。人の手で一本一本木の特性を活かして使えば、強度や調湿機能などで、他の建材と比較しても優れた性能を発揮できる素材です。

木の文化を守る

60年の間には、間伐をして木を間引いていく必要があります。

また伐採後には、再び植林をしていかなければ、次の世代により材を残せません。

森が多様な生物の住みかとなり、ゆっくりと浄化しながら水を供給し、土砂災害を防ぐ機能を十分に発揮できるように、計画的に管理された森林から、木材が安定して供給される仕組みが求められています。

温暖多雨な日本は、世界でも珍しく、豊かな森林に覆われています。

木は、植えて育てる段階から伐採や製材過程まで、多くの職人さんの熟練した技や知恵によって活かされます。つまり日本の家は、地域古来の豊かな木の文化により成り立ってきたのです。

自然を破壊せずに、持続的に伐っては利用するプロセスを繰り返してきた日本の森。

私たちは国産材を積極的に利用することで、日本の森林産業を活性化させ、地域の文化を育み、ひいては地球環境を守ることに繋がると考えています。



4月19日(日) 10:00-15:00 *小雨決行

会場 「彩の森」 京都市北区大森西町

- ・地下鉄・JR二条駅より車で約30分。
- ・詳しい集合場所は、お申し込み時にお伝えします。
- ・公共交通機関でお越しの方は、ご相談ください。

参加費 1,000円/名

- ・小学生以下無料。
- ・山菜の天ぷら、ダッチオープン料理、ご飯のお昼代および保険代を含みます。
- ・コップ、箸、お皿を持参された方は、参加費から100円引き致します。

定員 20名

お申込み・お問い合わせ <http://www.saikobo.co.jp>



彩工房ホームページのお申込みフォームにて、参加される方全員のお名前とご連絡先をお伝えください。4月4日(土)より受付を開始します。

彩工房

info@saikobo.co.jp
tel:075-632-9889
京都市山科区四ノ宮大将軍町15

よい家をつくる。

EVENT

5月16日 木のプランターで野菜を育てよう
6月14日 はじめての設計講座